

現場の人材不足を補うために活用されてきた人材派遣。建設業の2024年問題をきっかけに、ニーズが一層高まっているという。建設業界に技術者を派遣するワールドコーポレーション（千代田区）は、DX推進ツールのスキルを備えたICT支援員を浅沼組に派遣し、建築現場の業務効率化と生産性向上を実現している。

### = ワールドコーポレーション×浅沼組 =

# DX管理スキルを備えた施工管理人材とは

現場で施工管理を行う人材は、慢性的な人員不足に陥っている。浅沼組東京本店建築部の尾崎郁生工事部長は、「私が所管する第4工事部で



▶尾崎氏



▶小林氏

は必要な現場社員数に対し25%程度の不足を感じている。業務のデジタル化やアウトソーシングで人材不足を補う必要があるが、最新技術を使いこなせる技術者の育成と確保が前提となる。また、建築現場のDXを推進するデジタルツールを導入したが、活用・浸透しきれなかったこともある」と話す。

こうした課題に対して、現場経験とDX支援のスキルを持つワールドコーポレーションの小林良太氏が浅沼組に派遣され、建築現場で施工管理サービス「スパイダープラス」の活用と浸透を支援した。ライセンス管理の他、基礎、躯体、仕上げ工事の管理業務を

デジタルツールで効率化し、生産性の向上を実現。煩雑な検査業務では、1日当たり約3時間半かかっていた検査業務時間を約30分に短縮できたという。

尾崎氏は、「デジタルツールの活用を促し、浸透させるためには、現場で指導できる人材が必要だ。若手施工管理者への教育面からもDX推進のハブとなる人材の『アウトソーシング』が非常に重要だ。今後も成功事例を重ねていきたい」

小林氏は「現在、リーダー



チームとしてDX人材を派遣

の私と、数人の支援員でチームを組み、各現場に配置されている支援員と常に情報を共有している。技術的な活用支援の他、それぞれの現場を回りDX化に取り組んでいる。今後はICT支援員を増やすことで、デジタルツールのパリエーションを今まで以上に増やしたい」と意欲を示した。